

今年で運動開始70周年！ 赤い羽根共同募金運動です！！



地域の皆さんの優しさに支えられて、共同募金運動は今年で運動開始70周年を迎えます。秋田県共同募金会では、今年も運動を盛り上げるためのキャッチコピーを募集しています。「ところで、赤い羽根共同募金ってなんだろう？」という方のために、赤い羽根共同募金運動についてご紹介します！キャッチコピーを考える参考になれば幸いです。

1. 「共同募金運動」って？

毎年1回、10月1日から期間を決めて行われている募金運動で、日本以外でも43の国や地域で実施されています。日本では赤い羽根がシンボルとして使われ、「赤い羽根共同募金運動」として長年親しまれています。

募金運動は都道府県ごとに行われていて、それぞれの地域で集められたお金は、その地域の福祉活動のために使われるという「自分のまちを良くするしくみ。」としてのほたらきを持っています。そんな赤い羽根共同募金運動が、今年で70周年をむかえます！

2. いつはじまった運動なの？

戦後まもない1947年（昭和22年）のことです。戦争によって家族をなくしてしまった子どもたちや、被害にあった福祉施設などを支援するための「国民たすけあい運動」として共同募金運動は始まりました。

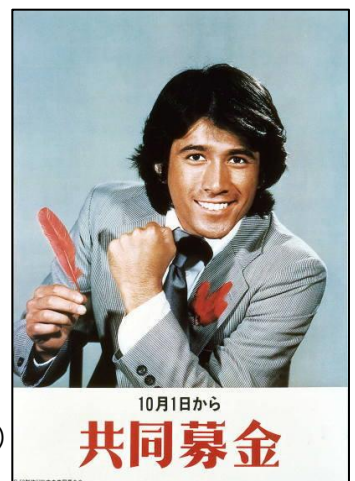
このとき集まった寄付金は5億9000万円。現在の価値で1200億円～1500億円といわれています。

3. どうして「赤い羽根」なの？

「赤い羽根」は、勇気や名誉、善行のシンボルとして、インディアンの羽飾りや騎士の帽子などに使われていました。そこから、募金に協力してくれた人へ「良い行いのしるし」として赤い羽根を配るようになりました。もともとはアメリカの共同募金運動で使われており、日本ではそれをヒントに第2回の運動から赤い羽根を取り入れたそうです。

それから赤い羽根はロゴマークやイラストとして、また、その時々の著名人の胸元で運動をPRし、共同募金のシンボルとして定着していきました。

（写真はタレント草刈正雄さんが登場した昭和52年の運動ポスター）



4. 募金は何に使われているの？

戦後まもなく始まった共同募金運動ですが、戦後の復興をとげてからも運動は続き、住民同士の「助け合い」や「支え合い」の心はそのままに、現在では自分のまちの地域福祉を支えるための運動という役割を果たしています。

ここ秋田県では、お寄せいただいた募金は、福祉施設の改修や利用者を送迎する車の購入などに。それぞれの市町村では、一人暮らしのお年寄りが交流できる場づくりや、除雪ボランティアの活動支援など、高齢化の進む雪国秋田ならではの福祉活動にも使われています。

また、大きな災害があったときには、都道府県の枠を超えて被災した方のために寄付金が活用されることもあります。